

## 生涯学習の中の美術について —倉敷市立美術館美術講座参加者への調査から—

関崎 哲

About the Art education in the continuous education  
-from the investigation of the consciousness and the requirement of study of the  
enrolled people in an art class in Kurashiki city museum of art.

Satoshi SEKIZAKI

### 要約

本研究では、岡山県での「生涯学習の中の美術」の現状を把握するため、県内の公的機関や民間が主催している生涯学習の講座の総開講講座数と、その中に占める美術関連講座の割合とその美術関連講座の講座内容の内訳を調査した。また、参加者の具体的なニーズを明らかにし、今後の学習活動の活性化を図るための基礎資料を得るために、倉敷市立美術館で行なわれている美術関連講座参加者に対して、アンケートを実施した。

調査の結果、美術教養に関する講座や、版画など特別な設備・道具が必要な分野の講座開設を望む声、さらに、長期にわたって受講できる講座の開設や、講座修了後の支援などといった、具体的な要望が明らかになった。今後は、美術関連講座における学習活動の活性化を図るために、このような学習者のニーズに応じていく方法を考えて行かねばならない。

キーワード：生涯学習、美術教育、美術館

### はじめに

今日、社会教育・生涯学習については、すでに様々な立場から論じられるとともに、公的・私的を問わず数多くの機関によって実施され、社会の中にしっかりと定着してきている。その中でも特に、芸術系や体育系を含む余暇教育の分野は、その教育の機会、講座数、参加者ともに多く、生涯学習の中心的な役割を果たしていると考えられる。

その中であって、美術の分野について見た場合、参加者のニーズを把握するための調査や、指導方法に関する調査・研究はほとんど行なわれていないのが実状である。本研究は、生涯学習の中の美術の分野について、現状を把握するとともに、学習参加者の具体的なニーズを明らかにし、今後の学習活動の活性化を図るための基礎資料を得ることを目的とするものである。

## 1 岡山県における生涯学習の中の美術の現状

今回の研究では、参加者のニーズを把握するための調査を行うにあたり、まず、岡山県での「生涯学習の中の美術」の現状を把握するため、岡山県生涯学習センターの資料を中心に、その他公的機関や民間が主催している生涯学習の講座情報を加えたものを調査対象とし、総開講講座数とその中に占める美術関連講座の割合、さらに、その美術関連講座の講座内容の内訳を調べた。

具体的には、平成15年度後期に開講された（平成15年度10月から始まる）講座で、単発ではなく継続的に開催されるものを対象に、岡山県生涯学習大学受講案内（岡山県生涯学習センター）から151講座、県内の2新聞社が主催するカルチャー講座から1069講座、岡山県社会保険センターや美術館等公的機関が主催する生涯学習講座から237講座、計1457講座をピックアップし、講座の総数と、その中で美術関連講座の占める割合を調べた。さらに、美術関連講座について、その講座の学習内容を調査し「美術関連講座」全体がどのような内容の講座で構成されているかを調査した。その調査結果は、以下、図1および図2・3に示す通りである。

図1 総開講講座数に占める美術講座の割合（2003年度後期、10月～の講座）

	総開講講座数	美術講座数
山陽新聞カルチャープラザ	897	79
朝日カルチャーセンター岡山	172	38
おかやま社会保険センター	233	19
岡山県生涯学習大学	151	7
倉敷市立美術館	5	5
	総開講講座数	美術講座数
計	1458	148

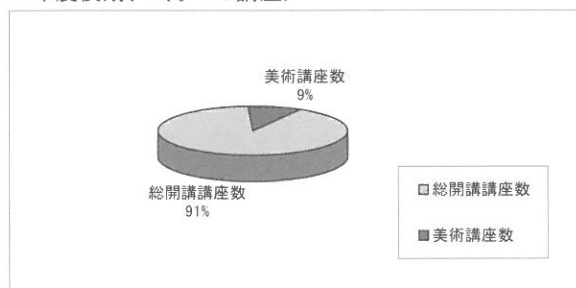


図2 美術関連講座の内訳

水彩・スケッチ	36
洋画(油絵)	27
日本画	16
水墨画(墨絵)	14
デッサン・クロッキー	6
パステル・クレヨン・色鉛筆	5
版画(銅板・平版・シルクスクリーン)	3
テンペラ	1
美術教養	11
陶芸	18
俳画	8
絵手紙	3
計	148

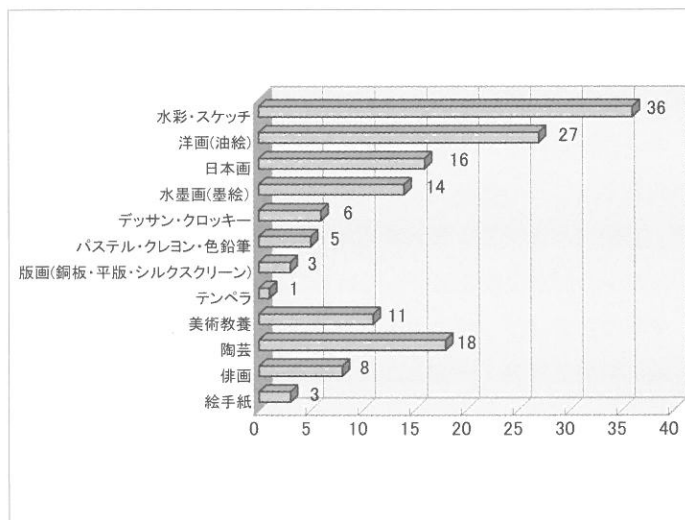


図3美術関連講座の内訳・その2

絵画関係	105
版画	3
彫刻・陶芸	18
美術教養	11
その他	11

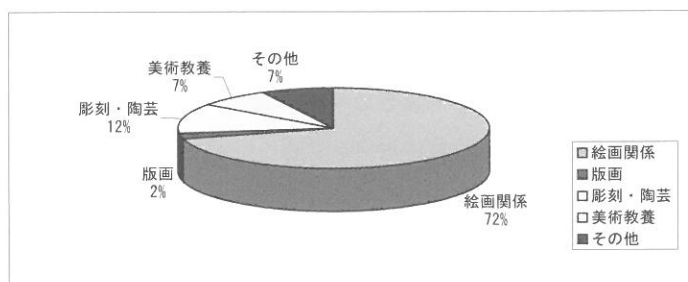


図1に見られるように、岡山県内で生涯学習として行なわれている講座の内、美術関連のものが占める割合は、約1割ある。これは講座の内容・分野別に分類した場合、多くの“講座を主催する側”が、20程度に分野分けをしていることから考えると、美術関連の講座数が、他の分野に比べて多いとすることが分かる。

さらに、美術関連講座の内容の内訳を見ると、図2に示すように、講座数の偏りは見られるものの、いわゆる美術分野の詳細な各分野にわたって確実に講座が開かれていることが分かる。図3はより分かりやすくするため、講座の分野分けを、絵画、彫刻・陶芸、美術教養、版画の4分野に分けてグラフにしたものである。絵画関係が7割を占め、次いで彫刻・陶芸・1割強、美術教養・1割弱、そして若干の版画講座、となっている。道具や制作のためのスペースが比較的確保しやすい絵画関係の講座が圧倒的に多く、専門的な機材や道具、設備が必要とされる彫刻・陶芸や版画を行う講座が少ないのが分かる。そして、もう少し美術鑑賞などを中心とした美術教養の講座が多いと推測していたが、実際には1割弱と少ないのが意外な結果となっている。

このような、岡山県における生涯学習の中での「美術関連講座」の現状を理解した上で、美術関連講座に実際に参加している人たちの具体的な感想や要望はどうなっているか調べるために、本研究では次のような調査を行った。

## 2 調査の概要

### (1) 調査の目的

この調査は、生涯学習の中での美術の分野について、現状を把握するとともに、学習参加者の具体的なニーズを明らかにし、今後の学習活動の活性化を図るための基礎資料を得ることを目的とするものである。

### (2) 調査実施期間および方法

本調査は、平成15年12月6・7日および13・14日に、倉敷市立美術館の協力を得、倉敷市立美術館で行なわれている4講座（デッサン、水彩画、日本画、版画）への参加者・76名に対してアンケートを実施した。

調査の実施にあたっては、各講座当日に研究者本人が講座に伺い、本調査と調査票への記入方法についての説明の後、調査票に記入していただいた。

(3) 調査の主要事項と調査票の構成

ア) 美術講座参加者（調査対象者）の属性 Q1,2,3,4

イ) 一般的な生涯学習に対する意識

- ・学習の必要性 Q5
- ・学習に取り組む理由 Q6
- ・学習の障害 Q7
- ・学習機会（場所、時間、期間） Q8,9,10,11,12
- ・学習の情報を得る方法 Q13

ウ) 美術に関する学習に対する意識

- ・学習の動機（きっかけ、目的、参加するまでの過程） Q14,15,16
- ・学習に対する感想と要求 Q17,18,19,20,21
- ・作品発表の有無とその方法 Q22,23
- ・作品鑑賞の回数と利用施設 Q24,25,26
- ・教室、講座等の複数参加の様子と内容 Q27,28

なお、Q21のみ自由記述とし、他の質問は全て選択肢を用意し、その中から該当するものを選択回答するものとした。また、ア)の項目以外は複数回答も無回答も“可”として集計を行った。

(4) 調査票の回収状況

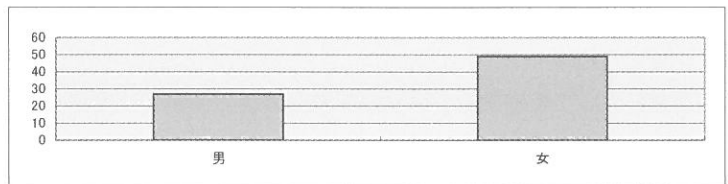
回収は、記入終了後直ちに研究者本人がその場で回収にあたったため、配布したすべての調査票を回収した。

3 調査結果

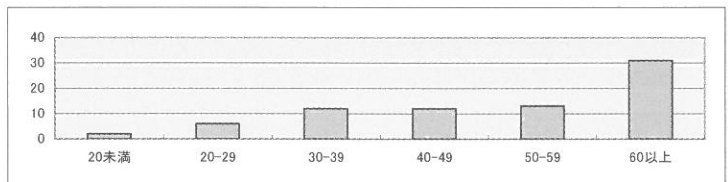
ア) 美術講座参加者（調査対象者）の属性

美術講座参加者の属性は以下に示す通り。

Q1 性別	
男	27
女	49

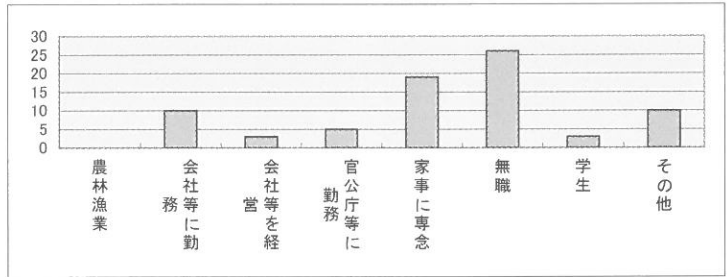


Q2 年齢	
20未満	2
20-29	6
30-39	12
40-49	12
50-59	13
60以上	31

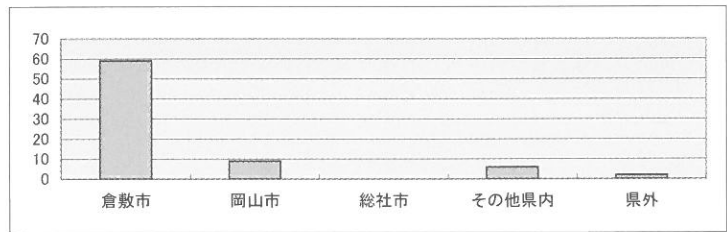


生涯学習の中の美術について—倉敷市立美術館美術講座参加者への調査から—

Q3 職業	
農林漁業	0
会社等に勤務	10
会社等を経営	3
官公庁等に勤務	5
家事に専念	19
無職	26
学生	3
その他	10



Q4 居住地	
倉敷市	59
岡山市	9
総社市	0
その他県内	6
県外	2
*その他県内	
児島郡、浅口郡、都窪郡、里庄町、真備町	
*県外	
福山市	

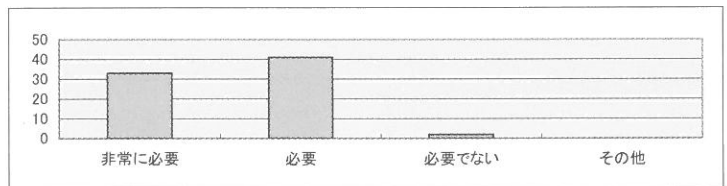


- ・女性の割合が高い。(今回の調査では、女性の参加者の数は、男性のほぼ倍に達している)
- ・60歳以上の方の参加が多い。(全体の4割強が60歳以上、30代、40代、50代はそれぞれ2割弱と平均化している)
- ・職業別では、主婦層と無職の方(年齢別の調査結果から考えて定年退職者と考えられる)の参加が目立つ。
- ・居住地に関しては、倉敷市が中心で、近隣地域からの参加は岡山市が多い。

イ) 一般的な生涯学習に対する意識

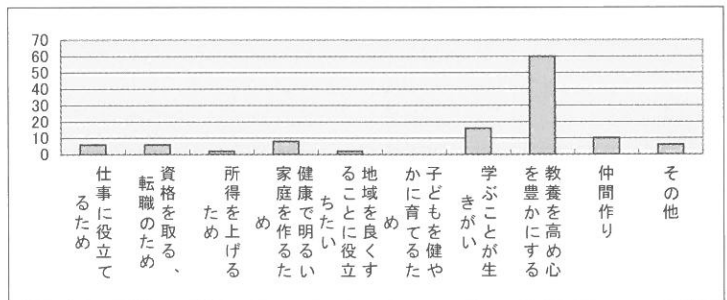
一般的な生涯学習に対する意識は、以下に示す通り。

Q5 生涯にわたる学習の必要性	
非常に必要	33
必要	41
必要でない	2
その他	0

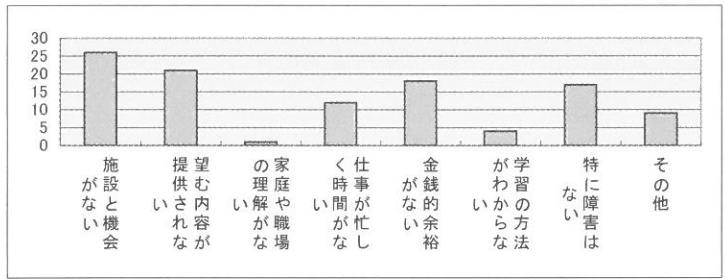


Q6 学習に取り組む理由	
仕事に役立てるため	6
資格を取る、転職のため	6
所得を上げるため	2
健康で明るい家庭を作るため	8
地域を良くすることに役立ちたい	2
子どもを健やかに育てるため	0
学ぶことが生きがい	16
教養を高め心を豊かにする	60
仲間作り	10
その他	6

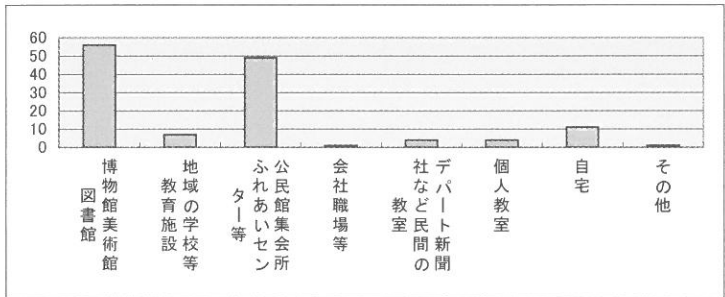
学生時代にやり残したこと、目標と好奇心。



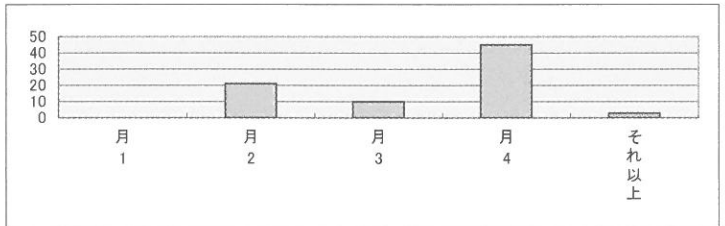
施設と機会がない	26
望む内容が提供されない	21
家庭や職場の理解がない	1
仕事が忙しく時間がない	12
金銭的余裕がない	18
学習の方法がわからない	4
特に障害はない	17
その他	9



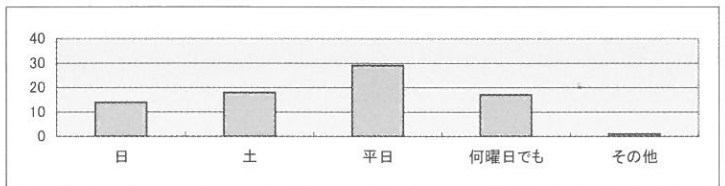
博物館美術館図書館	56
地域の学校等教育施設	7
公民館集会所ふれあいセンター	49
会社職場等	1
デパート新聞社など民間の教室	4
個人教室	4
自宅	11
その他	1



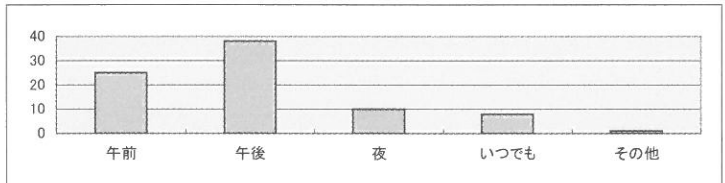
月1	0
月2	21
月3	10
月4	45
それ以上	3



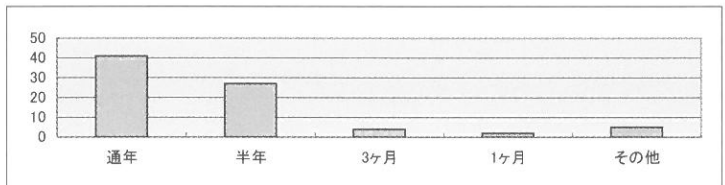
日	14
土	18
平日	29
何曜日でも	17
その他	1



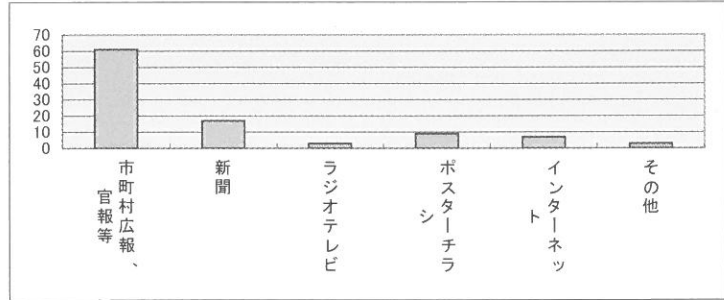
午前	25
午後	38
夜	10
いつでも	8
その他	1



通年	41
半年	27
3ヶ月	4
1ヶ月	2
その他	5



Q13 学習のための情報を得る方法	
市町村広報、官報等	61
新聞	17
ラジオテレビ	3
ポスターチラシ	9
インターネット	7
その他	3

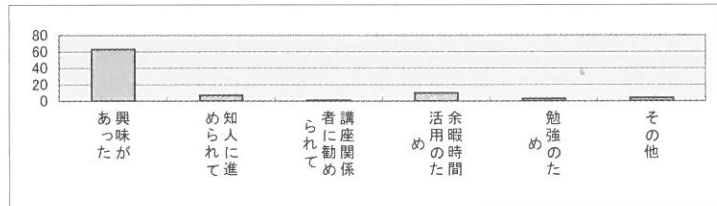


- ・ 学習参加者は、生涯学習をほとんどの方が「必要である」と考えており、教養を高め、心を豊かにするための学習が生涯学習であると考えている方が多いことが分かる。
- ・ 学習の場所は博物館、美術館、図書館といった公共の教育施設や、公民館など地域の公共施設が望まれている。
- ・ 学習の際の障害は、大きくまとめると、「時間的・空間的な問題」がまずあげられ、次いで「提供される学習内容の問題」、そして「費用の面での問題」があげられている。
- ・ 情報を得る方法については、ほとんどが公共機関による広報などを希望しているが、新しい傾向として、インターネットによるものへの希望も出てきているようだ。

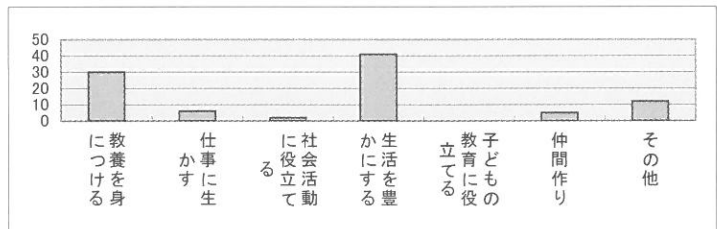
#### ウ) 参加している美術講座に関すること

参加している美術講座に関することは、以下に示す通り。

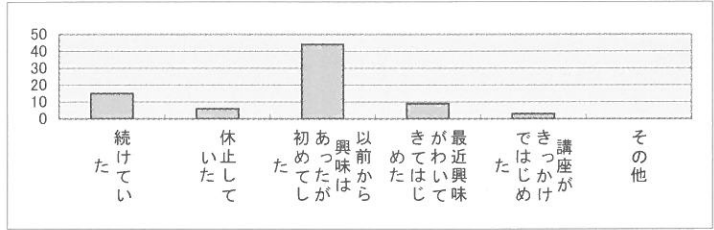
Q14 この講座に参加するきっかけ	
興味があった	63
知人に進められて	7
講座関係者に勧められて	1
余暇時間活用のため	10
勉強のため	3
その他	4



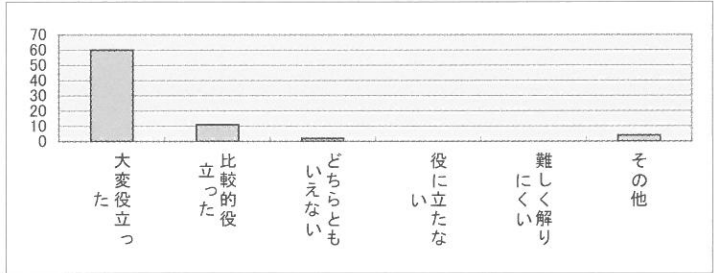
Q15 目的	
教養を身につける	30
仕事に生かす	6
社会活動に役立てる	2
生活を豊かにする	41
子どもの教育に役立てる	0
仲間作り	5
その他	12



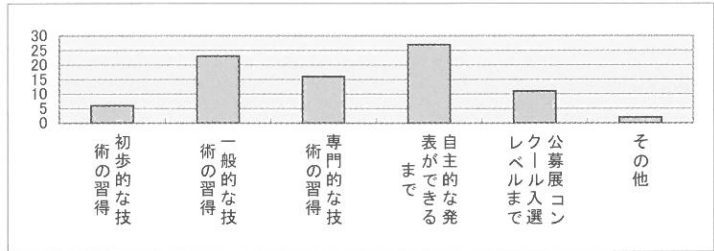
Q16 参加するまでの活動	
続けていた	15
休止していた	6
以前から興味はあったが初めて	44
最近興味がわいてきてはじめて	9
講座がきっかけではじめて	3
その他	0



Q17 参加した講座の感想	
大変役立った	60
比較的役立った	11
どちらともいえない	2
役に立たない	0
難しく解りにくい	0
その他	4

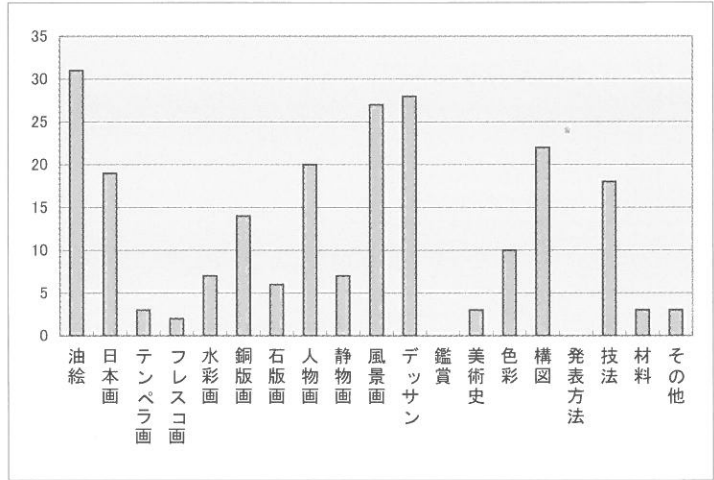


Q18 どの程度学びたいか	
初歩的な技術の習得	6
一般的な技術の習得	23
専門的な技術の習得	16
自主的な発表ができるまで	27
公募展コンクール入選レベルまで	11
その他	2

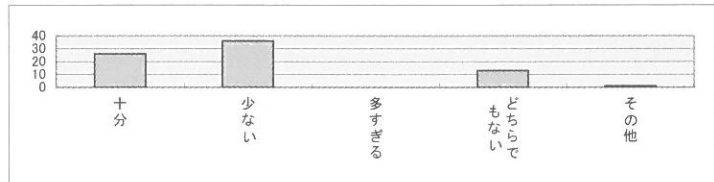


Q19 学習したいこと	
油絵	31
日本画	19
テンペラ画	3
フレスコ画	2
水彩画	7
銅版画	14
石版画	6
人物画	20
静物画	7
風景画	27
デッサン	28
鑑賞	0
美術史	3
色彩	10
構図	22
発表方法	0
技法	18
材料	3
その他	3

木版画、ステンドグラス



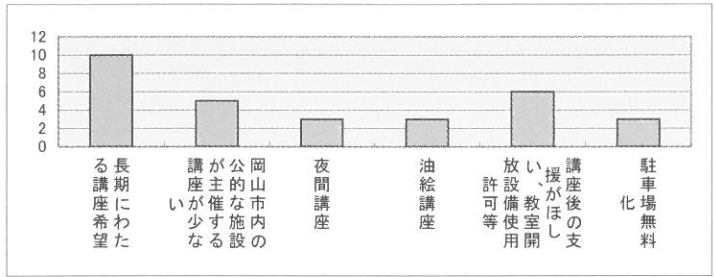
Q20 講座開催数について	
十分	26
少ない	36
多すぎる	0
どちらでもない	13
その他	1



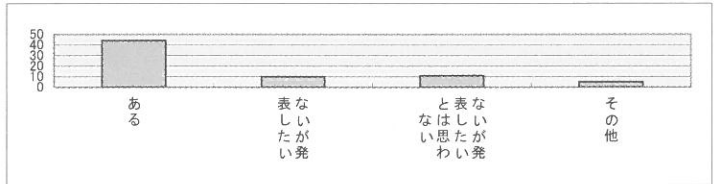


生涯学習の中の美術について—倉敷市立美術館美術講座参加者への調査から—

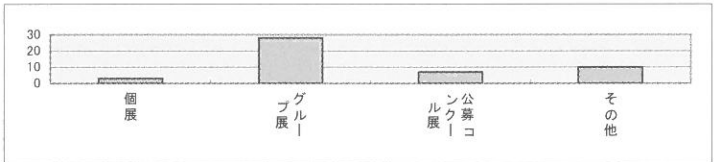
Q21 要望等(自由記述)	
長期にわたる講座希望	10
岡山市内の公的な施設が主催する講座が少ない	5
夜間講座	3
油絵講座	3
講座後の支援がほしい、教室開放設備使用許可等	6
駐車場無料化	3
その他	
美術講座と実技講座は違う日がいい	
ロッカー等の設備を整えてほしい	
コンテンツポリシーに関する講座をしてほしい	
専門家(作家)に直接習いたい	



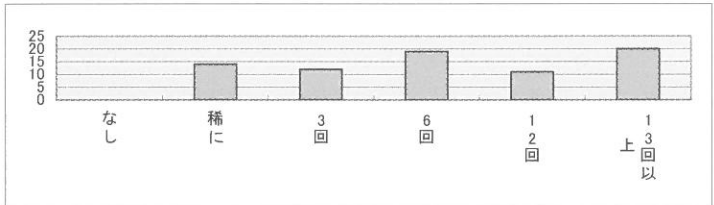
Q22 作品発表の経験	
ある	44
ないが発表したい	10
ないが発表したいとは思わない	11
その他	5



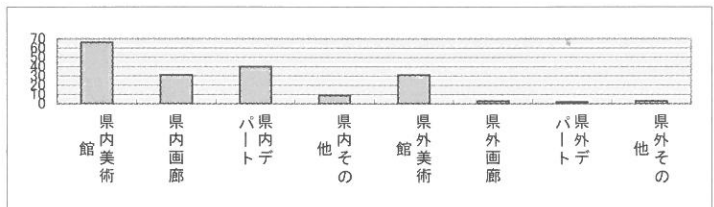
Q23 発表形式	
個展	3
グループ展	28
公募コンクール展	7
その他	10
公民館文化祭、講座の作品展	



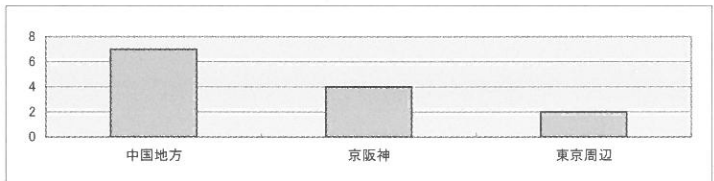
Q24 年間鑑賞回数	
なし	0
稀に	14
3回	12
6回	19
12回	11
13回以上	20



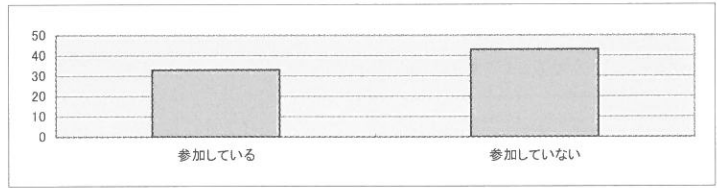
Q25 観賞場所	
県内美術館	66
県内画廊	31
県内デパート	40
県内その他	9
県外美術館	31
県外画廊	3
県外デパート	2
県外その他	3



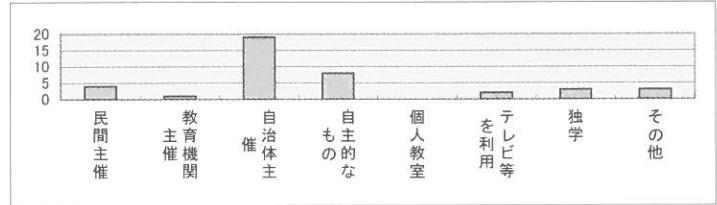
Q26 県外では何処に出かけるか	
中国地方	7
京阪神	4
東京周辺	2



Q27 この講座以外への参加	
参加している	33
参加していない	43



Q28 どんな講座に参加しているか	
民間主催	4
教育機関主催	1
自治体主催	19
自主的なもの	8
個人教室	0
テレビ等を利用	2
独学	3
その他	3



- ・ 学習の動機（きっかけ、目的、参加するまでの過程）については、「美術に対する興味」があり、「生活を豊かに」する、あるいは「教養を身につける」ために、こうした講座に参加している様子うかがえる。
- ・ 学習に対する感想と要求は、参加者の9割以上が参加した講座の内容に対し役に立ったと評価している。その上で講座に対する要求として、一般的な技術の習得から専門的な技術の習得まで、また、自主的な発表から公募展などへの入選のレベルまで等、参加者それぞれのレベルごとに、より具体的な要望を持っていることが分かる。
- ・ 講座の開催数については、十分であると回答しているものが4割、さらに半分以上がまだまだ少ないと感じており、講座数と内容を検討した上で、増やしていく必要があると考えられる。
- ・ 具体的な学習内容への要望は、いわゆる絵画関連（水彩、日本画、油絵を含む）の内容に対するものが圧倒的に多い。その他で要望のある特徴的な学習内容としては、版画（銅版、石版等）関連のことにについての要望が多いことが分かる。Q21でみられるように長期にわたって受講できる講座の開設や、講座修了後の支援が求められていることも美術関連講座として特徴的なことだと理解できる。また、各地域の公的な機関が主催する美術関連講座の開催にばらつきがみられるようで、地方や、岡山市での公的な機関による美術講座が少ないことがうかがわれる。
- ・ 作品発表の有無とその方法に関しては、ほぼ6割の方がグループ展を中心とした発表経験を持ち、発表の経験は無くても今後作品の発表を希望している人を加えると、7割を超える人が、講座で制作した作品の発表を希望しているということが分かる。
- ・ 作品の鑑賞に関しては、4割が年に12回以上出かけている。全体を平均するとほぼ2ヶ月に1度は美術館などで鑑賞を行っていると考えられる。鑑賞場所は、県内の美術館、県内デパート、県外の美術館、県内の画廊の順になっており、県内近隣の施設が中心というこ

とはいえ、展覧会の内容によっては、中国地方、さらには京阪神・東京周辺まで出かけていくことがあることも分かる。

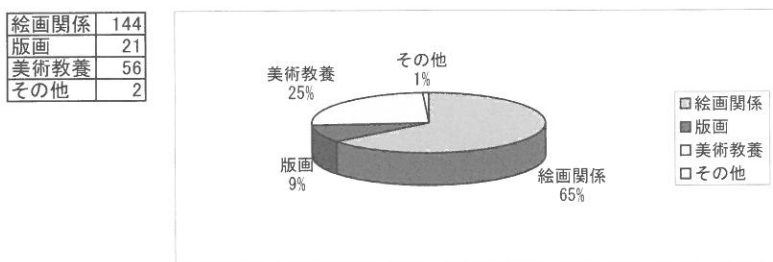
- ・ 教室、講座等の複数参加の様子と内容は、ほぼ4割の人が複数の講座に参加している。その参加している講座は自治体主催のものがほとんどで、中には自主的な集まりとして行われている講座に参加している人もいる。金銭的な負担をかけず、より多くの学習の機会を持ちたいと考えているようだ。

#### 4 考察

まず、第1章「岡山県における生涯学習の中の美術の現状」で明らかになった、実際に開講されている美術関連講座の内訳と、美術関連講座参加者が望んでいる講座の内訳について比較検討してみたい。

図4は美術関連講座参加者へのアンケートの結果出てきた「講座参加者」が望んでいる講座の内訳である。実際に行われている美術関係の講座内容の内訳を示した先の図3と比較すると、美術教養と版画に対する学習の要求が、実際に開講されている美術関連講座の美術教養と版画的開設の割合に対して、確実に多いことがわかる。美術教養についての学習要求の高さは、美術館での展覧会、あるいはテレビなどのメディアによる美術に触れる機会が増していることにとともに、鑑賞の方法をはじめとする美術教養に対する学習要求が増えていることが理由であると考えられる。また、版画に対する要望が多いのは、第一に、版画作品自体が比較的安価で、オリジナルを家に飾る機会が増えていることから、絵画や彫刻などに比べてより身近な美術としてとらえられることが多くなっていることが挙げられる。第二に、版画を制作するためには、専門的な機材や道具、設備が必要となって来ることから、個人的に制作を行うことが難しく、制作のための設備が整っている生涯学習の場でこそ行ってほしいという希望の表れと理解することができる。

図4 講座参加者が望む講座内容



次に、このアンケートの結果からは、学習に対する興味の高さとともに、「発表すること」への興味・欲求が非常に高いことが分かった。これは、特に「作品をつくる」という美術関連講座（特に実技系）の特徴と言えるかもしれない。幸いにも、今回アンケート調査を行った倉敷市立美術館で

の各講座は必ず受講生の作品展の機会を持っている。他にも第1章で調査の対象としたいくつかの講座でもそのような機会を作っている所が多かった。今後さらに、「発表すること」への要望をしっかりと受け止め、機会を提供していく講座や施設が増えていけば、美術関連講座の内容の深まりや、鑑賞を中心とした美術教養への新たな取り組みも生まれ、今後「生涯学習の中の美術」というものが活性化していくことにつながるものと考えられる。

#### おわりに

今回の調査では、対象とした美術関連講座参加者の人数が少なかった。さらに詳細なデータを収集するためには、今後、より広範囲の調査を行うことが必要であると考えている。

また、今回のアンケートにより明らかになった、美術教養に関する講座や、版画など特別な設備・道具が必要な分野の講座開設を望む声、さらに、長期にわたって受講できる講座の開設や、講座修了後の支援などの要望に対して、どのように応えていくことができるのか、今後、十分に考えて行かねばならないと思っている。

最後に、今回の調査研究のために快く協力をしていただいた、岡山県生涯学習センター、倉敷市立美術館、倉敷市立美術館美出講座参加者の皆さんに、あらためて記して感謝申し上げる。

#### 参考文献

- 「生涯学習の中の美術について」 関崎哲 筑波大学芸術学系芸術研究報10 1990  
「生涯学習化社会の教育計画」 市川昭午 教育開発研究所 1990  
「岡山県生涯学習大学 受講案内」 岡山県・岡山県教育委員会 2003

#### 調査協力

倉敷市立美術館、日本画講座・水彩画講座・デッサン講座・版画講座

2004年10月31日受付  
2004年12月25日受理